

岡谷の技術が日本を支える!! 「湖に映える、美しいものづくりのまち」

はじめに

岡谷市は、長野県のほぼ中央、諏訪湖の西岸に面し、東には八ヶ岳連峰、遠くには富士山を望む、湖と四季を彩る山々に囲まれた風光明媚な都市です。また、諏訪湖の釜口水門から天竜川が発し、遠く浜松に達しています。JR中央東線、飯田線、中央道西宮線、中



諏訪湖より釜口水門・岡谷市街、遠く北アルプスを望む

日本の近代化を支えた
岡谷の製糸業と、
それを受け継ぐ精密工業、
そしてナノテクノロジ

本市は、明治時代から昭和初期に掛けて、全国一の製糸のまちとして発展し、日本の近代化を支えた生糸の都「シルク岡谷」として世界にその名を馳せました。戦後はその製糸の産業基盤を基に「東洋のスイス」といわれる時計・カメラを中心とする精密工業都市として急速に発展してきました。そして現在も「ものづくりのまち」として、これまで培ってきた精密加工技術を最大限に活用し、21世紀型技術体系の基盤を成すナノテクノロジをベースとした「スマートデバ

中央道長野線など、交通の要衝にもなっています。

イスの世界的供給基地」の形成を目指して歩んでいます。市内には、「シルク岡谷」の隆盛を今に伝える建物があちらこちらに残され、15件の産業遺産が、経済産業省から「近代化産業遺産群」の認定を受けています。また、社団法人日本機械学会からは、本市が所蔵する8台の繰糸機が「機械遺産」に認定されています。

湖に映える、
美しいものづくりのまち

諏訪湖は近代スケート発祥の地といわれ、多くのオリンピック選手を輩出しています。全面結氷時の「御神渡り」現象や、うなぎ消費量の多さなど、本市は諏訪湖と密接なかわりを持ってきました。また、岡谷のアイデンティティは、製糸業から始まり、現在も本市の



「全国産業観光フォーラムinおかや」にて実演された繰糸機

と可能性を全国に情報発信することができました。
【新市民病院建設】

本市は長い間2つの公立病院を運営してきましたが、国の医療制度改革や医療環境の変化などから、病院の統合を進め295床の新病院を建設することとしました。

現在は、平成27年5月の開院を目指し、実施設計を進めているところです。この2つの病院を統合しての新病院建設は、厳しい医療環境の中で、次の世代にも安心の医療を提供し続けられる医療基盤を整備するため、国の求めに応じ



新病院完成予想図

本的な改革を形にしてきたものです。その答えとなる新病院建設を成し遂げていくことは、全国にも誇れる地域医療再生への取り組みといえるものです。

大型事業の推進と
コンパクトシティ

新病院建設のほか、現在同時進行で次の事業を進めています。

- 諏訪広域消防本部と岡谷消防署 高機能通信指令センター機能が入る平成27年度開署予定の「新消防庁舎建設事業」
 - 隣接2市1町で整備を進め、平成28年9月稼働予定の「湖周地区ごみ処理施設整備事業」
 - 新病院建設に伴い移転する「新蚕糸博物館」と「新美術考古館」の整備事業
 - 長野県から依頼を受けて整備し、平成26年4月開校予定の「看護専門学校設置事業」
- これらの大型事業により、岡谷は大きく動き出しています。

そして、ごみ処理施設と看護専門学校以外は、まちの中心部に整備を進め、コンパクトシティとしてのメリットを最大限に生かしていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 85・19 km²
- ◆ 人口 5万2881人
- ◆ 世帯数 2万847世帯

〔将来都市像〕「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷」

〔まちの特徴〕長野県のほぼ中央、諏訪湖の西岸に面する、湖に映える、美しいものづくりのまち

〔特産品〕うなぎ料理、わかさぎ、おみやげ、信州みそ、地酒



岡谷市長
今井竜五



〔観光〕諏訪湖、鶴峯公園、鳥居平やまびこ公園、横河川の桜アーチ、イルフ童画館、近代化産業遺産群、機械遺産、岡谷温泉口マネット、やまびこスケートの森、プリンス&スカイラインミュージアム、小鳥バス、塩嶺王城パークライン

〔イベント〕岡谷太鼓まつり、鶴峯公園つつじ祭り、横河川の桜まつり

ことは、今を生きる私たちに課せられた使命であることを肝に銘じながら、努力を続けていきます。

おわりに

平成25年度は、第4次岡谷市総合計画の5年目を迎え、前期基本計画の最終年となります。将来都市像である「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷」の実現に向けて、市民の皆さんと手を携えて頑張ってください。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民が主役のまちづくり

自然環境に恵まれ
豊かな歴史に彩られたまち

桜川市は、茨城県の中西部に位置し、北・東・南側を八溝山系の山並みに囲まれ、南側には関東の名峰「筑波山」がそびえ、市の中央部を南北に、市名の由来にもなった「桜川」が流れるなど、自然環境に恵まれた地域です。



江戸時代からの見世蔵や民家が残る「桜川市真壁重要伝統的建造物群保存地区」

また、これらの山々から採れる良質な御影石を使った、石材業や肥沃な平野部における農業など、自然の恵みを生かした地場産業が息づいています。一方で、豊かな歴史に彩られたまちとしても知られ、数々の歴史的遺産や名所旧跡が現存しています。

桜の季節には、市内の山々に多数自生している山桜が、萌黄色の新緑と併せてパッチワーク模様のような眺望を見せ、特に「高峯の山桜」は、「まるで珊瑚礁のように」と雑誌に形容されるほどです。

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定

本市は、地域住民の皆さまの町並み保存運動がきっかけとなり、平成22年6月、市内真壁地区の町並みが、国の重要伝統的建造物群

保存地区に選定されました。

約400年前から続く城下町の町割りの上に、江戸時代後期以降の見世蔵や民家が数多く残るのがこの地区の特徴で、全国で87番目、関東で4番目、茨城県内では初の選定になります。ぜひ、本市の歴史的町並みの真壁にお越しください。

市民の皆さまと協働によるまちづくり

さらに、同地区では「真壁のひなまつり」(開期/2月4日~3月3日)が毎年開催されます。訪れた方々をもてなそうと地域の皆さまから始まったこの祭りも、平成25年で11回目を迎えます。回を増すごとにぎわいを見せ、今では開期中に10万余人が訪れる、茨城県の早春を代表するイベントになりました。

一方、大和地区では「雨引の里と

彫刻」(開期/9月22日~11月24日)が開催されます。本年で9回目となるこの彫刻展は、参加作家が主催となり地元の協力を得て運営するもので、里山や集落などに著名な作家40余人の彫刻作品が展示されます。

さらに、4月上旬になると、市名にふさわしく岩瀬地区の磯部桜川公園では、国の名勝・天然記念物「桜川のサクラ」など約1000本もの桜の開花に合わせて、「名勝『桜川』の桜まつり」など、さまざまなイベントが開催されます。

このような、市民の皆さまと行政の協働による長年のまちづくりの取り組みが高く評価され、日本観光協会主催の優秀観光地づくり賞で、茨城県内で初の「金賞総務大臣賞」や、「地域づくり総務大臣表彰」などを受賞しました。

情報発信手段として茨城県内で初の「Facebook」開設

平成24年1月、本市は、こうし

た市民の皆さまと行政の協働によるイベントなどのさまざまな情報を市内外の方に提供することを目的に、茨城県内の自治体で初のFacebookを開設しました。

今までに、このFacebookを通じて約670人の方に本市のファンになっていただきました。さらに、このファンの方々には、それぞれ情報をやり取りしている友だちが約7万3000人もいます。本市からそのファンの方に情報を提供することで、その友だち約7万3000人の方にも本市からの情報が届く可能性が広がります。このように、Facebookはまさに口コミです。ツイッター同様かなりの情報の伝搬力があり、しかも情報が新鮮で経費もほとんど掛かりません。

今後は、Facebookをフルに活用することで「桜川市のファン」を増やせるものと期待しています。

広域交通のネットワークとして北関東自動車道が全線開通

一方で、平成24年3月に本市の広域交通のネットワークとして期待される北関東自動車道(群馬県高崎市から茨城県ひたちなか市に至る延長約150km)が全線開通しま

した。

これにより、首都圏から伸びる関越・東北・常磐自動車道が連結され、群馬・栃木・茨城の北関東3県はもとより、首都圏や東北地方などへもつながる高速道路ネットワークが実現し、本市へのアクセスが飛躍的に向上しました。このような交通網の整備は、特に広域的な高速交通網の整備は、本市の交流人口の増加による、にぎわいの創出につながるものと期待をしています。

高齢者をさり気なく見守る「高齢者見守りネットワーク事業」

本市では、独り暮らしの高齢者が安心して自立した生活が継続できるネットワークとして、平成24年10月から「高齢者見守りネットワーク事業」をスタートしました。

この取り組みも茨城県内初の事業で、市内の新聞・牛乳・ガス販売店、金融機関など高齢者に接する機会が多い52事業所と警察・消防などの9機関が連携をすることで、独り暮らしの高齢者をさり気なく見守り、異変が確認された場合などには的確な対応を提供するものです。

プロフィール

- ◆ 面積 179.78km²
- ◆ 人口 4万6431人
- ◆ 世帯数 1万5119世帯

〔将来都市像〕 伝統と豊かな自然に恵まれた田園文化都市「やすらぎのまち桜川」

〔まちの特徴〕 数々の歴史的遺産や名所旧跡、北関東自動車道が全線開通し関越・東北・常磐自動車道が連結
〔市町村合併〕 平成17年10月1日、岩瀬町・真壁町・大和村が合併



桜川市長 中田 裕



- 〔特産品〕 御影石、茨城コシヒカリ、小玉すいか、常陸秋そば、日本酒
- 〔観光〕 桜川市真壁重要伝統的建造物群保存地区、国指定文化財・天然記念物「桜川のサクラ」、高峯の山桜
- 〔イベント〕 真壁のひなまつり、名勝「桜川」の桜まつり、桜川市大和の石まつり、真壁祇園祭、雨引の里と彫刻(不定期開催)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「ちかくて、ふかい奥河内」「わがまちに玄理あり」 訪れたい、住みたいまちを目指して

はじめに

河内長野市は、大阪府の南東端に位置し、東は金剛山地で奈良県、南は和泉山脈で和歌山県と接し、北を頂点とした三角形の市域を形づくっています。大阪都心から車で30分という便利な位置にありながら、全国有数の歴史資源と豊かな自然に恵まれた住宅都市です。

ちかくて、ふかい奥河内

緑に囲まれた自然と歴史のまちである本市を訪れていただくため、本市を中心とした大阪南東部の山ろくエリアを「奥河内」と名付け、平成23年度から「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに観光振興に取り組んでいます。

近年のアウトドアブームとも相まって、秋のススキの名所である緑に囲まれた自然と歴史のまちである本市を訪れていただくため、本市を中心とした大阪南東部の山ろくエリアを「奥河内」と名付け、平成23年度から「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに観光振興に取り組んでいます。

若者世代の定住化に向けて

本市では、平成23年4月より、若い世代の定住化の促進のため、夫婦共に40歳未満の新婚世代に対し、家賃補助制度と持家取得補助制度を設けています。この制度を利用して若者の定住により、本市に元気なエネルギーが注がれることを願っています。

また、平成24年10月には、本市の玄関口である河内長野駅前商業施設「ノバティながの」の5階に、「こども・子育て支援センター『あいつく』」をオープンしました。木製の大型遊具や絵本コーナーなどがあり、安心して「ほっこり」「ゆったり」していただけるこの施設には、地元産の木材である「河内材」をふんだんに利用し、子どもたちが木のぬく



駅前商業施設内に設置された「こども・子育て支援センター『あいつく』」

岩湧山や四十八滝で知られる滝川にはたくさんのハイカーや山ガールが訪れ、にぎわいを見せています。

この奥河内は、アウトドアブランド「モンベル」の「モンベルフレンドエリア」として登録されています。平成24年11月23・24日には、アウトドアスポーツを通じて、自然の循環を体感する環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」を関西で初めて開催しました。この「奥河内SEA TO SUMMIT」は、滝畑ダム湖から岩湧山頂(898m)までをカヤック・自転車・ハイイク(歩き)で楽しんでいただくものです。滝畑ダム湖でのボートやカヤックの利用はこれまで認められていませんでしたが、大阪府や関係団体との協議・調整の結果、実現しました。湖面に色とりどりのカヤック

もりを感じながら遊ぶことができます。オープン当初からたくさんの親子にご利用いただき、「子どもを安心して遊ばせることができる」「お母さん同士でゆっくり話ができる」と好評で、「あいつくデビュー」が合言葉になっています。利便性の高い場所で充実した子育て支援を行い、駅前のにぎわいづくりにもつなげたいと考えています。

新たな活性化の拠点づくり

高向玄理ゆかりの地である市南部の高向地域には、「くろまるの里」ともいべき活性化・交流の拠点を整備します。このエリアには、

クが浮かぶ姿は、これまで誰も見たことがない光景でした。当日は全国からたくさんの参加者が集い、沿道は多くの観覧者でにぎわいました。滝畑エリアはこれまでも夏には府内外から多くの方が訪れるバーベキューやキャンプのスポットとしてにぎわってききましたが、これをきっかけにダム湖の活用を進め、四季を通じてもっとたくさんの人に訪れていただきたいと考えています。

高向玄理ゆかりのまち

歴史的には、本市出身といわれる高向玄理ゆかりのまちでもあります。高向玄理は、608年に聖徳太子の命で留学生として隋に渡り、32年間律令制度を学んだ後の640年に帰国。その5年後、大化の改新による新しい国づくりに

四季を通じて色とりどりの花で来園者を楽しませてくれる「大阪府立花の文化園」や本市の歴史を楽しく学べる「河内長野市立ふるさと歴史学習館(くろまる館)などの施設があります。

これらの施設と連携し、若いファミリー層の皆さんに1日楽しめる過ごしていただけるよう、本市の農産品などを販売する地産地消の直売所や子どもが遊べる施設を設けるとともに、奥河内でアウト

国博士として活躍しました。本市は、平成22年3月に全国で3番目となる「教育立市宣言」を行い、大阪一の教育都市を目指して小中一貫教育や早期の英語教育、ふるさと学の実施、文化財の活用などに力を注いでいます。

生涯学習の取り組みとしては、高向玄理にちなんだ市民大学「くろまる塾」を平成23年6月に開講しました。くろまる塾は「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・みずから」自分に合った学びを見つ



平成24年に開催された環境スポーツイベント「奥河内SEA TO SUMMIT 2012」

ドアを楽しみむ際の玄関口として位置付け、主要駅周辺に続く本市の新たな拠点とすることを目指しています。

本市は、平成26年に市制60年を迎えます。人でいえば還暦。これをきっかけに、本市のこれまでの歩みを振り返るとともに、生まれ変わって今後ますます発展していくため、市民の皆さんと一緒に今後の河内長野市について考える1年間にしたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 109.61km²
- ◆ 人口 11万3466人
- ◆ 世帯数 4万7177世帯

〔将来都市像〕安全・安心・安定した緑と笑顔のあふれるまち

〔まちの特徴〕大阪都心から30分の便利な位置にあり、全国有数の歴史資源と豊かな自然に恵まれたまち

〔特産品〕妻楊枝、すだれ、釘、紙、ヘアリング、ステンレス、桃、椎茸、



河内長野市長 芝田啓治



みかん、地酒

〔観光〕大阪府立花の文化園、関西サイクルスポーツセンター、観心寺、天野山金剛寺、延命寺、烏帽子形城址

〔イベント〕河内長野市民まつり、高野街道まつり、秋祭、河内長野市産業祭(ふれあい楽市きらく市)、奥河内SEA TO SUMMIT

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

地理的特性と歴史や自然との調和を生かした 触れ合いあふれる健やかな都市づくり

はじめに

日置市は、鹿児島県の西部、薩摩半島のほぼ中央部に位置するまちです。代表的な自然遺産に、日本の渚百選にも選ばれた、南北40kmにも及ぶ砂浜と1km以上も続く青々とした松林を持つ日本三大砂丘の一つ、白砂青松の「吹上浜」があります。特に東シナ海に沈む夕



日本三大砂丘の一つ、白砂青松の「吹上浜」

日は絶景です。本市の伝統行事で、鹿児島三大行事の一つ「妙円寺詣り」は、慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いにおいて、島津義弘公が敵中突破をした難(かん)難(なん)辛(か)辛(か)苦(く)をしのび、鹿

児島市内から日置市までの約20kmの道のりを歩いて参拝する行事で、「西郷隆盛」や「大久保利通」も参加したといわれています。また、無病息災・豊年万作を願い、泥まみれになって踊る「せつべとべ」など、いにしえに伝わる伝統行事が今もなお受け継がれています。

400年の歴史を誇る「薩摩焼」をはじめ「日置瓦」「焼酎」などの伝統産業と、優れた泉質を誇る歴史ある温泉郷「湯之元温泉」「吹上温泉」など、貴重な資源を数多く有しています。このような多種多様な資源を生かし、市民が心身共に健やかに過ごせるまちづくりを目指しています。

自然と調和する快適な暮らしを目指して

本市は、環境への負担を軽減す

した。

市では早速、地区公民館に取り組みの意思確認を行ったところほとんどの地区から手が挙がりました。趣旨は「花火で地域を元気に」「地区公民館を身近な地域づくり拠点として認識を深める」「地区民が地区への誇りと愛着をはぐくむ」ことでした。

その費用は、同社が花火打上経費30万円のうち20万円を、残りを各地区館が負担します。

夏の地区イベントが計画されていなかった地区も「花火だけで地区民を集めるのは…」との思いから、「花火をきっかけに、何か新たな仕掛けを」と、実行委員会を組織し、7地区で夏祭りなどが新設、復活しました。

花火は、火薬類取締法によるさまざまな検査、許可も必要ですが、幸いにして市内で操業する大洋花火(株)に、各地区と連携しながら、手続きを進めていただきました。また、地区では耕作者や近隣住民への配慮、打上現場の整備、片付けなど、地道にさまざまな対策を講じて、地域の活性化を陰で支えていただきました。現在では、26地区すべての地区公民館で花火事



市内26地区すべての地区公民館で行われた花火事業

「地区公民館ごと」に花火大会を開いて地域を元気にできないか」と焼酎を製造する西酒造(株)から地域貢献の一つとして市に提案がありま

花火で地域を元気に!

業が行われるようになりました。

市民を、地域を、元気にしていくという公共的課題について、地区公民館、地元企業、そして市がそれぞれの役割を果たしながら解決を図ることを目的に始まった花火事業は、共生協働の地域づくりに火をつけています。

おわりに

平成17年5月、4町の対等合併

によって日置市が誕生しました。これまで地域の一体感を醸成するために、あらゆる機会をとらえて、市民と膝(ひざ)を交えて対話を続けてきました。これからも、引き続き積極的に市民の中に飛び込み「地域や人を知らなければ、市政の舵(かじ)は取れない」という思いで使命を果たしていきたいと思えます。市政の原点は徹底した現場主義です。

プロフィール

- ◆ 面積 253.06 km²
- ◆ 人口 5万1173人
- ◆ 世帯数 2万2677世帯

〔将来都市像〕歴史と伝統、豊かな自然の恵み、歴史と自然が調和した活気あふれるまち

〔まちの特徴〕薩摩半島のほぼ中央に位置し、県都鹿児島市へ隣接し、西は白砂青松の日本三大砂丘の一つ、吹上浜や東シナ海の美しい景観が残されている



日置市長 宮路高光



〔特産品〕地勢を生かしたお茶、米、ミカン、イチゴ、ブドウ、アスパラガスなどの農産物や伝統的な薩摩焼

〔観光〕イチゴ、ブドウなどの観光農園、吹上浜(観光地引網)、薩摩焼の里(美山地区)

〔イベント〕妙円寺詣り、せつべとべ、窯元まつり、ふるさと港祭り、高山ふるさと秋まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。